

県中教研 音楽部会だより

第 36 号

発行日 令和3年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 池田 宗介
題 字 金山 泰仁 先生

生徒主体の授業づくりを

指導主事 海見 英理

研究大会で、曲の構成と曲想の変化に注目し、作曲家の生き方と重ね合わせて聴くことを目標とした鑑賞の授業を参観しました。授業者は展開でベートーヴェンの遺書を紹介し、「作曲家はどんな気持ちを表したかったのか」と投げかけられました。生徒は「音楽的な見方・考え方」を働かせ、「明るく穏やかな部分もあり、音楽に救われたこともあったと思う。」「タタタタンというリズムが何度も現れ、自分の人生と戦っていることを表したと思う。」など、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、発言していました。板書は音楽を形づくっている要素ごとにまとめられ、曲想の変化と作曲家の生き方とを重ね合わせて考えることができるよう工夫されていました。授業者は生徒の発言を生かして授業を進め、自分の思いを率直に語る生徒の姿が印象的でした。そして、終末は振り返りの時間がしっかりと確保され、次時につながるアプローチがなされていました。

文部科学省の河合紳和教科調査官は、「生徒にどんな力が付いたのか、学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自らが学習の状況を振り返り、次の学習に向かうことができるようにするために学習評価の在り方は極めて重要だ。」と述べておられます。

自分が若い頃、「教えたいと思うこと」を中心に授業を進め、クラスによっては私語が多く、どのように授業を行えばよいかを随分思い悩んだものでした。調査官の講話から、生徒の状況を把握せず、生徒の実態に合わない教師中心の授業を行っていたことに改めて自戒の念を感じました。

参観した授業のように、生徒の様子をよく見ながら授業を進め、適切な資料提示等、様々な状況に応じた工夫のある指導を行い、生徒一人一人にとっての学習が充実するよう、日々自己研鑽に努めていきたいと思います。

(東部教育事務所)

今日の学習でどんなことを学びましたか？

部長 池田 宗介

新型コロナウイルスの感染拡大により、最も大きな制約を受けたのが音楽科の授業であったと言えます。そのような状況の中、授業内容や授業会場、参観者の人数制限等、工夫を凝らし、東部・西部両地区の中学校教育課程研究大会を開催することができました。提案された授業を通して、自らの実践を振り返るとともに、よりよい授業の在り方について研修を深める貴重な機会となりました。授業者のお二人をはじめ、準備や運営にご尽力いただきました先生方に深く感謝申し上げます。

授業研究会に参加するたびに、私は学生時代の恩師・重嶋博先生の講義・演習を思い出します。その内容は、地域の学校の授業研究会を参観させていただき、ビデオカメラで授業の様子を撮影するとともに、教師の発問や発言、児童生徒の発言と反応を逐一記録し、大学に持ち帰って検討するというものでした。

重嶋先生がもう一つ学生の私たちに課したことがありました。それは、授業後に児童生徒に「今日の学習でどんなことを学びましたか？」とインタビューすることです。本時のねらいが「達成できたか」、「身に付いたか」は、児童生徒がこの質問に明確に答えることができるかどうかで分かるというわけです。また、児童生徒がうまく答えられないということは、本時の展開の他に、題材やねらい、全体計画のいずれかに問題があり、見直す必要があることを学びました。

教員になり二十数年、授業を終えるたびに「今日の学習でどんなことを学びましたか？」と尋ねたら、生徒は明確に答えることができるだろうかと不安に苛まれるようになりました。そこで、授業の終末に、どんなことを学んだかをカードに書かせ、毎時間チェックすることで、自らの指導を振り返り、授業改善に生かそうと試みているところです。

(高・福岡中)

第64回 研究大会報告

東部地区（魚津市立西部中学校）

魚津市立西部中学校の澤田 緑教諭が、「ベートーヴェンの生き方と曲想との関わりに関心をもって、『交響曲第五番』の第1楽章を鑑賞しよう」という学習課題の下、授業を行った。

あえて第2楽章から聴かせる導入や異なる肖像画の提示、遺書の朗読等が生徒の興味を一気に高める手立てとなった。意見を伝え合う活動では、生徒の意見を基に、授業者が問いかけを繰り返したことで、生徒一人一人の「音楽的な見方・考え方」を深めることにつながった。

この作品に対する授業者の思いや、この題材を通して生徒に感動や鑑賞の面白さを味わわせたいという情熱が授業の随所に感じられた。本時での取組は、全楽章を通して聴く次時への意欲付けとなったと思われる。

また、基礎・基本の定着に有効なウォームアップの方法、生徒の興味・関心を高めるための工夫、「形式」にとらわれすぎない展開の工夫等、本時には授業者の指導スキルがたくさん詰まっていた。

本教材は、誰もが一度は授業で扱う教材であるが、本時のような「学び合い」が自分の授業で成立しているのかを振り返る貴重な時間となった。「学び合い」を充実させるためには、生徒の発言が重要である。しかし、ただ発言させるのではなく、教師がそれらの意見をどのようにつなげ、深めていくかがとても大切である。本時では、生徒と授業者の対話がとても印象的であった。単に話合いや意見交換をするのではなく、様々な意見を引き出し、それを教師が紡いでいくことを繰り返す中で、一人で考えるよりも深く音楽を捉えられるようになることが、本当の「学び合い」であると感じることができた授業であった。

加藤 恵（黒・清明中）



東部地区の部会協議では、前半に授業についての協議が行われ、作曲者の生き方と曲想との関わりに関心をもって鑑賞するための効果的な指導方法や個々の「音楽的な見方・考え方」を深めるための手立てが話題となった。『なぜ明るさを入れたのか』『このリズムを多く使ったのはなぜか』などと問い続けたことは、作曲者の思いを感じ取ることにも有効であった。「第2楽章の冒頭の鑑賞から始めたり、雰囲気異なるベートーヴェンの肖像画や遺書を提示したりしたことは、曲や作曲者に対する興味・関心を高めた」「正反対のことを比較することで、興味・関心を高めた」「次時への動機付けになっていた」という意見が挙がった。また、板書計画や日頃の授業の積み重ねの大切さを改めて感じたという意見もあった。

海見英理指導主事（東部教育事務所）からは、感想を述べ合うことで考えが深まったり広がったりすることから、生徒への問いかけを繰り返し行い、意見を引き出していくことや、話し合いだけでなく、曲を何度も聴き、「ここはどうだったかな」と確認することが大切であるという助言をいただいた。

新型コロナウイルス感染症対策についても情報交換を行った。不安を抱える教員が多かったが、工夫を凝らした授業や合唱活動が紹介され、コロナ禍で部会がなかなか開けない中、貴重な情報交換ができたという声が聞かれた。

部会協議の後半は、引き続き海見指導主事より、「新学習指導要領の基本的な考え方」「題材の評価規準の基本構造」「観点別評価の総括」について、その内容を解説していただいた。「現行の学習指導要領と新学習指導要領の違いについて明瞭簡潔にご指導いただいた。今後、しっかりと読み込み、理解して準備していかなければならない」「3観点による評価を授業の中でどのように行うかについて研修したい」といった声が聞かれた。

米多 彩（滑・滑川中）

【研究主題】幅広い音楽活動を通して、「音楽的な見方・考え方」を働かせ、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するにはどうすればよいか。
— 育成を目指す資質・能力を明確にした学習指導と評価 —

西部地区（小矢部市立津沢中学校）

西部地区大会では、小矢部市立津沢中学校で、松坂成規教諭による1年生の創作の授業「リズムアンサンブルを楽しもう」が行われた。授業は体育館を会場とし、全体での指導やグループ活動は、ソーシャルディスタンスに配慮して実施された。

本時は全5時間中の第4時で、第1時では、ライヒ作曲「手拍子の音楽」の簡易版を練習し、第2時では、それを基に4小節のオリジナルリズムを創作した。第3時では、ミュージカル「STOMP」の鑑賞を行った。多様な音楽表現の楽しさを感じた上で、デッキブラシ、バケツ、金属トレイ等の身近な音素材を楽器として使用し、自分たちが創作したリズムアンサンブルの表現の工夫がなされた。

本時では、第3時で行った工夫をさらに深めようと、導入では前時に撮影した各グループの演奏動画を視聴した。工夫した点や表現したいイメージについて生徒が説明するなど「音楽的な見方・考え方」を生かした言語活動が図られた。その後のグループ活動では、自分たちが表現したいイメージに近付けるため、各グループで様々な試行錯誤が行われた。活動中の生徒からは、「前半と後半は木材で、中間部は金属で演奏しよう」「こだまのように聴こえるように、使う楽器を変えてみよう」等、活発に話し合ったり、演奏したりする様子が見られた。終末では本時の活動を振り返り、次時で行うグループ別発表会に向けて意欲を高めていた。



中橋 洋哉（南・城端中）

協議会では、主に授業中に生徒の変容があった場面を振り返り、効果が見られた手立てについて話し合った。導入での動画による前時の振り返りの効果については、「生徒が客観的に自分の演奏を聴いたことで、さらなる表現の工夫への意欲につながった」「他グループの演奏を基に、教師が実際に音を出しながら音色や奏法を確認したことも、その後の道具の選択、強弱等の工夫につながっていた」などの意見が挙げられた。その一方で、他グループを模倣して音色の選択はするものの、リズムや構成の工夫にまで達しないグループも見られたことから、「導入での確認事項を板書やワークシートに記載し、創作活動中にいつでも生徒の目に入るようにしたらどうか」「音楽のテーマを設定させたらどうか」という提案もあった。

干場恵利華指導主事（西部教育事務所）からは、創作の源となる「自分が表現したいイメージ」を詳しくもたせることで、生徒は音楽を形づくっている要素の知覚と、それらの働きが生み出す雰囲気や感受とを関わらせて考え、要素を変化させることの意味合いを理解した創作活動ができる、との助言をいただいた。また、音楽科の授業においては、音楽をつくるのがゴールではなく、つくることを通して、何を知覚・感受したかという過程が大事であることや、グループでの話し合いを基に試行錯誤した結果、音楽がどうなったかについて、生徒自身にその変容を確認させることの必要性について教えていただいた。

続けて、新学習指導要領に基づく学習評価について解説していただいた。これまで「関心・意欲・態度」の評価は、題材の導入時に行うことが多かったが、「主体的に学習に取り組む態度」では、生徒が各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるかなどについて、題材全体を通して継続的な把握に努めることが求められること等、新しい評価について理解を深めることができた。

番匠 理美（氷・西の杜学園）

フレッシュさんから

生徒が主体的に取り組むことができる授業を目指して

富山市立南部中学校 朽木 百花



教員になり半年以上が過ぎた。毎日が充実しているが、音楽を教えることがとても難しいと痛感している。

新型コロナウイルスの影響で、演奏活動が難しい中、生徒が主体的に取り組める授業を行うことがとても難しかった。また、これまで私自身があまり触れてこなかったジャンルの音楽を題材に授業をすることもとても大変だった。

特に合唱コンクールは、練習の進め方だけでなく、本番も例年とは異なる形で実施した。コロナ禍で歌うことを不安に思う生徒もおり、どのように練習を行えば安心して歌唱活動に取り組めるのかを考えた。また、器楽が専門の自分にとって歌唱指導はとても難しく、生徒のためになる指導方法を模索しながら授業を行った。時間をかけて音を取り、まとまりのある合唱にするために、生徒の悩みや思いを聴きながら、生徒と一緒に合唱を創り上げた。

授業では幅広いジャンルの音楽を取り扱う。生徒が楽しみながら取り組める授業にするには、まず自分があらゆる音楽に詳しくなければならぬ。そして、それぞれの音楽がもつ特性を理解しておくことが大切であると思った。

授業では幅広いジャンルの音楽を取り扱う。生徒が楽しみながら取り組める授業にするには、まず自分があらゆる音楽に詳しくなければならぬ。そして、それぞれの音楽がもつ特性を理解しておくことが大切であると思った。

今の私の目標は、生徒たちが生涯にわたり音楽に親しむ素地となるような授業をすることである。在学後のさらにその先を見据え、音楽に親しめるような授業を展開しなければならないと考える。そのために、私自身が高い専門性をもち、生徒が主体的に取り組める授業を日々考えることが必要である。

教師という仕事には、生徒の個性や人間性を伸ばすことができるという魅力がある。常に学び続け、何事にも前向きに取り組む姿勢を忘れずに、音楽を通して生徒の豊かな情操を育むことができる教師になりたい。

今年1年を振り返って

高岡市立志貴野中学校 安川 知里



今年は、臨時休業に始まり、コロナ禍における音楽の授業や部活動、合唱コンクールの実施等、先が見えずに戸惑い、不安に思う日々が続きました。時々刻々と変わる状況下で、「今、できることは何か」を模索しながら、周囲の先生方や生徒たちに助けられ、何とか1年を過ごすことができたように思います。

10月末に実施した合唱コンクールでは、生徒たちの思いが込められた素晴らしい合唱を聴くことができました。周囲と広く間隔をとり、マスクを着用しての歌唱は練習しづらく、とても不自由だったことと思います。しかし、限られた時間の中で懸命に練習し、もっとよい合唱にしようと工夫を重ね、楽しそうに、そして嬉しそうに歌っている生徒たちの姿や表情は本当に生き生きとしており、私自身、そんな彼らの姿に強く励まされました。「このクレッシェンドにはどんな思いをのせる?」「どの言葉を大切に歌いたい?」学校中に生徒たちの歌声が響きわたり、音楽を通して皆がひとつになっていく様子を目の当たりにして、改めて、人と人をつないでくれる音楽のすばらしさを実感することができたと思っています。

10月末に実施した合唱コンクールでは、生徒たちの思いが込められた素晴らしい合唱を聴くことができました。周囲と広く間隔をとり、マスクを着用しての歌唱は練習しづらく、とても不自由だったことと思います。しかし、限られた時間の中で懸命に練習し、もっとよい合唱にしようと工夫を重ね、楽しそうに、そして嬉しそうに歌っている生徒たちの姿や表情は本当に生き生きとしており、私自身、そんな彼らの姿に強く励まされました。「このクレッシェンドにはどんな思いをのせる?」「どの言葉を大切に歌いたい?」学校中に生徒たちの歌声が響きわたり、音楽を通して皆がひとつになっていく様子を目の当たりにして、改めて、人と人をつないでくれる音楽のすばらしさを実感することができたと思っています。

それと同時に自分の課題も多く見付かりました。生徒たちの歌を聴いて、より適切なアドバイスをしたり、豊かな表現につなげたりするためには、自分自身がさらに幅広い知識をもって音楽と向き合うこと、また、教えたことや考えさせたいことを的確に生徒たちに伝えられるように、自身の表現力や演奏技術をさらに磨き、高めていくことが必要であると強く実感しました。

これからも、自分自身が多様な視点をもって音楽を学び続ける姿勢、そして音楽に触れているときの生徒たちの生き生きとした表情や言葉を大切にしながら、音楽の面白さや様々な魅力をたくさん生徒たちと分かち合っていけるように、努力を続けていきたいと思っています。